

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について (予報第2号(6月))

標記について、次のとおり発表します。

なお、当室では、「病虫害発生予察情報」を主に農業指導者向け、別途発出する「病虫害発生・防除情報メールサービス」を主に農業者向けとして発信しております。

《特に発生に注意》

- 【水稲】 ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)
- 【ぶどう】 ベと病
- 【バラ科果樹】 クビアカツヤカミキリ
- 【トマト】 ハモグリバエ類
- 【野菜類・花き類】 ハスモンヨトウ

《6月の予報概要》

A 水稲

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病		
			縞葉枯病(ヒメビウンカ)		
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)(発生に注意)				

B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう			灰色かび病		
				ベと病	
			チャノキイロアザミウマ		
			クワゴマダラヒトリ		
もも			せん孔細菌病		
			シンクイムシ類		
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ(発生に注意)				
みかん			黒点病		
			ミカンハダニ		
			カイガラムシ類		
いちじく			アザミウマ類		
果樹類全般			果樹カメムシ類		

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			灰色かび病		
			うどんこ病		
		アザミウマ類			
トマト		葉かび病・ すすかび病			
			灰色かび病		
				ハモグリバエ類	

D 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜・花き類		シロイチモジヨトウ			
				ハスモンヨトウ	
			コナガ		
		アブラムシ類			
			コナジラミ類		

《(参考)6月の気象予報》

気温	低い (20%)	平年並 (40%)	高い (40%)
降水量	少ない (20%)	平年並 (40%)	多い (40%)
日照時間	少ない (40%)	平年並 (40%)	多い (20%)

(大阪管区气象台5月26日発表)

A 水稻

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6月の降水量は平年並～多いと予想されている。 ・ 昨年度の8月の巡回調査では、発生はやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田植後の余り苗を水田に放置しない。 ・ 発生が予想される場合は、田植前に箱施用剤を処理する。
縞葉枯病 (ヒメトビウンカ)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 田植前までに水田、畦畔の除草を行う。 ・ ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であるため、ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 ・ 密植を避けて通風を良好にするとともに、窒素質肥料の過用を避ける。
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水深4 cm以下の浅水管理を行う。 ・ 桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 ・ 田植直後から約20日後までの食害による被害が大きい。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・ 6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発病を認めたら、被害葉や被害果を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
べと病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月の巡回調査では、発生はやや多かった。 ・ 一部地域では、平年より早い発生が確認されている。 ・ 6月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。
チャノキイロアザミウマ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・ 一部地域では、平年より早い被害果の発生が確認された。 ・ 黄色粘着トラップ調査における誘殺虫数はやや多かった。 ・ 6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

クワゴマダラヒトリ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成虫は年1回、8～9月にアカメガシワ、ニセアカシア、カラスザンショウなどに産卵する。 ・主に中齢幼虫で落葉や樹木の地際部で越冬する。越冬後、3月以降に幼虫が移動し、ブドウの新梢や葉を食害する。 ・初期に新梢の生長点加害されると、被害が大きいため初期防除に努める。
-----------	---	---

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・6月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる被害葉や被害枝、被害果を除去し、適切に処分する。 ・薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前が効果的。 ・降雨前に袋かけを行い、雨滴による感染を防止する。 ・風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
シンクイムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ももの果実に食入するシンクイムシ類は、ナシヒメシンクイ、モモシンクイガ、モモノゴマダラノメイガがある。 ・被害果や被害枝は除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3 バラ科果樹

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
クビアカツヤカミキリ	発生に注意	<p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は樹体内を食害し、4月～10月頃にフラス（幼虫の糞・木くず・樹脂の混合物で中華麺～うどん状に固まる）を排出する。6～8月に成虫が羽化する。 ・フラスの発生を見逃さないようにほ場をよく見回る。 ・フラスが見られたら、千枚通しや針金等でフラスをかき出してから薬剤を注入する。 ・発生地域では、成虫対象の登録農薬を散布する。

4 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の発生量は平年並であった。 ・5月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・6月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝は除去し、適切に処分する。
ミカンハダニ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の巡回調査では、発生は平年並であった。 ・6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。
カイガラムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。

5 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネギアザミウマの発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマがいちじくを加害する。 ・果実内に侵入し食害する。食害された果実は内部が変色する。 ・ほ場の周囲を0.8mm目合いの赤色ネットで覆い、成虫の侵入を抑える。 ・光反射シートをマルチとして設置し、成虫の侵入を抑える。

6 果樹類全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
果樹カメムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、一部の地点で平年より多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回り発生及び被害状況を確認する。発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を実施する。

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月の巡回調査では、発生は平年並であった。 6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 咲き終わった花卉や幼果に感染しやすい。 20℃程度の多湿な環境条件や過繁茂で発病が多くなる。 QoI 剤（シグナム）、SDHI 剤（アフエット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月の巡回調査では、発生は平年並であった。 6月の降水量は平年並～多い、日照時間は少ない～平年並と予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 窒素過多で気温が25～28℃、湿度が50～80%で日照不足が続くと発生する。 QoI 剤（アミスター、ストロビー、シグナム）、SDHI 剤（アフエット、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。
アザミウマ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月の巡回調査では、発生はやや少なかった。 6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 定植時には、粒剤やかん注剤を施用する。 感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難であるため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ハウス栽培では、開口部を0.8mm目合いの赤色ネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> 5月の巡回調査では、発生は少なかった。 6月の降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。 すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の巡回調査では、発生は平年並で見られなかった。 ・6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生が多くなるので、施設の換気を十分行う。 ・茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
ハモグリバエ類	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の巡回調査では、発生はやや多かった。 ・6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マメハモグリバエやトマトハモグリバエなどが発生する。 ・摘葉した被害葉は、ほ場外へ持ち出し処分する。 ・ほ場内や周辺部の除草を徹底する。

D 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
シロイチモジヨトウ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年より少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用を避ける。
ハスモンヨトウ	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、複数の地点で平年より多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナガ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ調査における誘殺虫数は、一部の地点で平年より多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の巡回調査では、発生はやや少ない～平年並であった。 ・6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。 ・5月の黄色水盤調査における発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。 ・薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
コナジラミ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の巡回調査では、一部の作物で発生がやや多かった。 ・6月の気温は平年並～高く、降水量は平年並～多いと予想されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマトでは、吸汁による果実の着色不良のほか、TYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬する。キュウリでは、CCYV（ウリ類退緑黄化ウイルス）を伝搬する。両病に対する有効な薬剤は無いため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努め、発生初期に薬剤散布を実施する。 ・ハウス栽培では、開口部を0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ウイルス病の発病株は見つけ次第抜き取り、ほ場外に持ち出し処分する。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・ホームページ

(平成23年4月1日より大阪府病害虫防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

●病害虫発生情報メールサービス

申込先 大阪府環境農林水産部農政室推進課病害虫防除グループ・メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約15件の病害虫情報を電子メールで送付します。

●おおさかアグリメール

申込先 大阪府立環境農林水産総合研究所

企画部 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

- Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑
「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」
<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>
(大阪府植物防疫協会)